



#### 【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	・「いじめゼロ子どもサミット」の開催により、児童生徒自らがいじめの問題を主体的に考え、その防止に取り組む機運を醸成した。
②	・地域不登校防止推進教員の配置により、不登校の未然防止、早期対応の徹底を図り、学校や関係機関と連携した組織的な不登校対策の取り組みを推進した。 ・市町村及びフリースクールと連携して社会活動や体験活動の機会を提供したことにより、参加した児童・生徒に心の変容がプラスに表れた。
③	・県立学校21校40棟において、経年による学校施設の損耗や機能低下に対する大規模改造工事を実施し、教育環境の改善及び学校施設の耐久性の向上を図った。 ・災害時における電源確保のための小型発電機を特別支援学校11校に12台配備した。 ・防災教育を体系的に推進するため「学校における防災教育の手引き」を作成した。 ・学校と市町村防災部局の連携を強化するための連絡会議を設置した。 ・全国的に見てもトップクラスのスピードで当初の計画どおりH28年度末で本県の私立学校施設（幼稚園を除く）の耐震化率は100%に到達した。

#### 【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(28年度事業)	事業コスト(千円)	事務事業評価		主要な施策の成果掲載頁
			総合評価	29年度の方向性	
①②	いじめ・不登校等未然防止対策事業	172,967	A	継続・見直し	218
	いじめ・不登校等解決支援事業	144,939	A	継続・見直し	219
②	不登校児童・生徒図書館等活用推進事業	11,824	A	継続・見直し	220
③	県立学校施設整備事業	2,978,443	A	継続・見直し	217
	私立学校施設耐震化促進事業	63,015	A	終了	98
	私立幼稚園施設耐震化促進事業	41,010	A	継続・見直し	73

#### 【VI. 施策に対する意見・提言】

○スクールカウンセラー連絡協議会(H29.2)  
・スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーがお互いの状況を知り、それぞれの強みを活かし連携して不登校対策に取り組むため、情報交換の機会を増やす必要がある。

#### 【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・24時間子供SOSダイヤル、ネットいじめメール相談、毎学期のいじめアンケート等を実施し、相談体制の充実を図る。</li> <li>・学校問題スキルアップ研修を実施し、いじめの未然防止、早期発見・早期対応の校内体制の充実を図る。</li> <li>・学校だけでは解決が困難な生徒指導事案については、生徒指導支援チームを派遣し支援するなど、生徒指導体制の充実を図る。</li> <li>・地域不登校防止推進教員を中学校に19名配置するとともに、新たに小学校に3名追加配置することにより、不登校の未然防止対策を強化する。</li> <li>・スクールカウンセラーの小・中連携により、中学1年次での不登校の出現を予防する。</li> <li>・社会福祉士等の資格を有するスクールソーシャルワーカーの配置を拡充し、様々な課題を抱える児童生徒を早期に関係機関につなぐ体制の充実・強化を図る。</li> <li>・公立図書館や青少年の家等において実施する社会活動や体験活動でのフリースクールとの連携促進を図るとともに、児童・生徒の体調等に配慮した柔軟な体験活動プログラムの提供。</li> <li>・県立学校における教育環境の改善及び施設の長寿命化を図るため、計画的に大規模改造工事を進める。</li> <li>・防災教育を実施することが学校の責務であることを全ての学校の「学校安全計画」に位置付け、様々な教育活動を通じて防災教育を推進する。</li> </ul>